

富岡地域づくり 協議会だより



第27号

令和5年8月25日

広報委員会

<https://www.town-tomioka.click/>

富岡地域づくり協議会の総会が開催されました



令和5年5月20日（土）午後3時より、富岡まちづくりセンターのホールにて、富岡地域づくり協議会の総会が開催されました。昨年につづいて一堂に会しての総会になりました。

令和5年5月8日（月）付で、新型コロナウイルスの感染法上の位置づけが、2類から5類に移行になりました。この5類感染症とは、感染症法上の定める感染症の5類型のうちの一つで、感染力や重篤性などに基づく総合的な観点からみた危険性が最も低いものとされるものことです。

インフルエンザ・破傷風・風しん・麻しん等がこれにあたります。

これにより、国や地方自治体による規制や制約がなくなり、マスクの着用等についても、基本的に個人の判断にまかせられるようになりました。こうした状況下において開催された総会ということになります。

ところで、新型コロナウイルスが猛威を奮い、世界中の人々に脅威をもたらし、人々の生活に多大な支障をきたしました。

この間まごうことなく不便な生活を余儀なくされてきました。ご多分にもれず、富岡地域づくり協議会の活動にも大きな影響を与えました。大変だったこの2～3年間でした。

昨年度の総会時には予定していた、ないしは、計画した事業は全て実施できるものと希望したものです。実際には、その期待とは裏腹に、いくつかの事業の実施を見合わせたものがありました。

富岡地区体育祭・新年賀詞交歓会・三世代まつりがその主なものです。（敬老会は、所沢市として令和4年度以降実施しないことになりました。）

コロナが猛威を奮っていた頃に続いて、昨年も中止になったということは、そのそれぞれがこの数回継続して実施していない、あるいは、実施を見合わせているということになります。今年度の総会において、これらは本年度の事業として承認されています。即ち、実施の方向でいるということです。3～4年ぶりの、場合によっては、5年ぶりの開催ということになります。

過去の実績があり、ノウハウや用具・道具等の準備があるとはいえ、再開に当たってはそれなりの大きな努力や総力及び大勢の人の協力及び尽力が必要になります。

今年度の総会で、鹿島輝雄新会長を中心とする新体制が発足しました。これまで同様強力な布陣です。何事にもめげることなく、前進されることと思います。（当然総会での決定及び民意に従いながらになります）。とはいえ、地域づくり協議会のどの事業もひとり執行部のみで実施できるものではなく、ひとえに地域の皆様の双肩にかかっているということになります。

この大事な時期故、関係の皆様及び地域の皆様に今までに増してのご理解とご協力、そして、ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

そして、実績や成果を残し、次につなげていけるようにしていければと思います。

富岡地区ところワゴン運行開始、出発式が行われました



令和5年5月27日（土）10時から、富岡まちづくりセンターホール及び玄関前広場にて、富岡地区ところワゴン出発式等が開催されました。

公共交通機関が通っていない、直近の駅に行ったり、スーパーマーケット等に行き物に行ったりするのに不便で支障をきたしている人々がいるとの情報がありました。これらの場所になかなか出向けず、買い物も思うようにできずにいるという状況にある人がいるということです。



目の前にはなくても、近くに自由に乗れる車等が走れば、その車を利用して目的の場所に行きやすくなるのでは……。こうした思いから、富岡地区にところワゴンが運行されることになりました。

今まで走っていたところバスではカバーしきれなかった場所、つまり、空洞だった地域を埋めるために縷々検討されたルートを通るようにした交通機関ということになります。ところワゴンが走るようになった地域に住まわれる人にとっては、とりわけ便利になることと思われま

す。ところで、このところワゴンの運行が、当日5月27日（土）午後1時台（北岩岡経由ルートC便）から始まりました。これを記念して行われたのが出発式です。そして、試乗会や車両展示・乗車体験会等も同時に行われま



このところワゴンは、地域に住む人々が利用することによって、維持・改善していく公共交通機関です。必要に応じて、積極的に利用し、長期間の運行ができますよう期待したいと思います。尚、運行ルート及びダイヤ等については、過日各戸に配布された「ところワゴンの利用案内」を確認頂きたいと思います。

<編集後記>

はくちょう座のデネブ、わし座のアルタイル、こと座のベガの3つの明るい星（一等星）を結んで描かれる三角形が『夏の大三角』と呼ばれるものです。このうちベガとアルタイルは、七夕の伝説における「織り姫」と「ひこぼし」といわれるものです。七夕の天の川と共によく知られるもので、夏の夜空の『スター』とでもいえるものだと思います。小学校の教科書にも掲載されていて、よく知られるものです。

街頭や車のライト・広告塔やネオン等で、そこそこが明るくなって、空にひかる星も見える数が減少してきています。われわれが子どもの頃からみると、雲泥の差があります。記憶では、5等星、6等星までみえて、満天星だらけだったように思います。

時間にまかせて夜空を仰いでいるうち・あの星は赤く光っている・この星は青く光っている等々細かい観察をしたり・この星は〇〇みたい・あの星は〇〇さんかなといういろいろ想像を膨らませたりしました。

身の回りが明るくなって便利になったのは間違いないと思いますが、その分ロマンや夢がなくなってしまうかもしれないと思うのですが、いかがでしょうか。

そんな中でも、今でも天を彩るこの『夏の大三角』は、目にする事ができる目立つ星です。童心にかえって、たまには夜空をみあげてみてはいかがでしょうか。